

日本拳法 新型コロナウイルス感染症対応限定 試合様式

1. 感染予防対策

- 選手 面～フェイスシールド(面内部装着)、またはマスクを着用する。
上記フェイスシールド, 万一の危険性(破損等で眼部負傷)を考慮し接触・組打ち技に特に留意し規則の運用を図る(組打ち・接触時間の制限～下記記載)
- 審判員 装備フェイスシールド(眼鏡式又は鼻部にて固定)は3審とも同じ物とする。
- 会場へは、役員・選手以外の入場は禁止する。
※各団体の監督・代表者等の入場は主催者の判断によるものとする。
- 会場内では来場者(選手・役員・審判)全員がマスクを着用し静粛にする。
必要以上の会話は控える事(飛沫感染予防・ソーシャルディスタンディング)
- 試合場外でのセコンド等の声援・アドバイスは一切禁止する。(飛沫感染予防)
- 来場者(選手・役員・審判)全員の感染確認調査票提出(事前記載)ならびに当日の検温を実施する。
- 各都道府県の「新型コロナウイルス感染症予防ガイドライン」に準ずること。

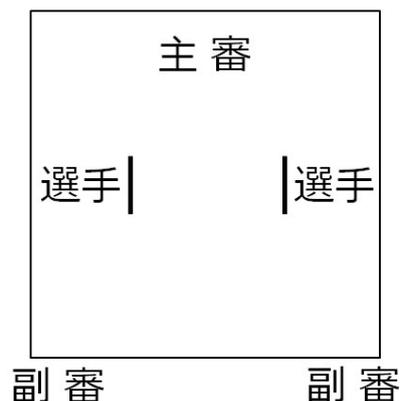
2. 競技規則 (新型コロナウイルス感染症対応限定規則)

- 選手へ事前に笛・口頭での宣告に直ちに従う事を周知徹底する。(宣告音量抑制の為)
- 接触時間の短縮をはかる～組打ち技の時間短縮3秒以内目安。
- 無声の気合でも技の充実により決め(一本)となる事を再認識の上判断する事。
- 一本の判定基準(撃力)に関しては、通常時と同様とする。
- 主審の宣告音声の抑制。(選手にのみ判別できる程度)
- 膠着状態(組打ち・寝技)解消又は危険技防止の際でも選手に接触せずに、主審の「待て」の宣告・副審の笛で制止する。

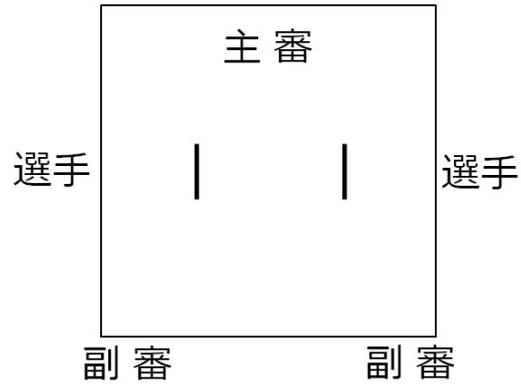
※選手・各審判の特別所作(ソーシャルディスタンシング)次項図参照

試合中断時(反則等で審判合議)、選手・審判の立ち位置

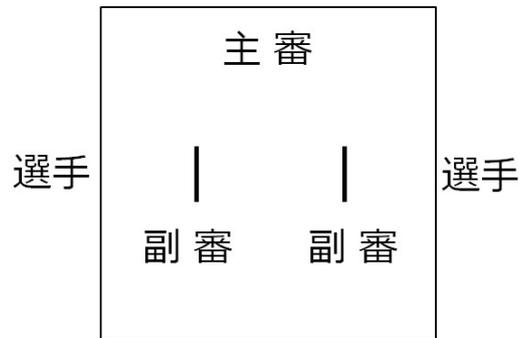
- ① 主審「待て」と宣告 ⇒ 選手は紅白の仕切り線



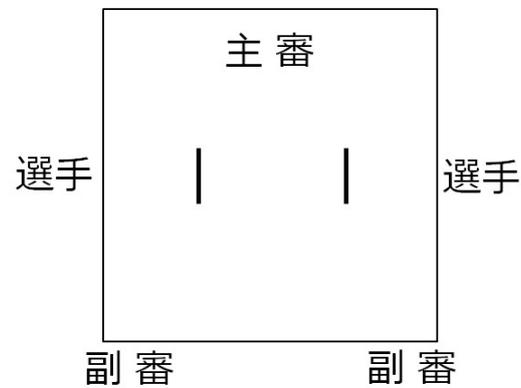
② 主審「選手場外へ」と指示 ⇒ 選手入場位置(場外線外側)



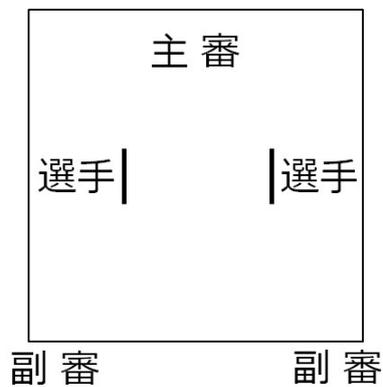
③ 主審「副審」と口頭と動作で呼び寄せる ⇒ 副審紅白仕切り線外



④ 短時間での合議終了 ⇒ 副審定位置へ速やかに戻る



⑤ 主審「選手入場」と指示⇒選手仕切り線



⑥ 主審合議結果「宣告」の後「続けて」で試合再開